



## 第 15 回産業観光まちづくり大賞 受賞団体決定!!

全国産業観光推進協議会（事務局：東京都港区 会長：須田寛）・公益社団法人日本観光振興協会（本部：東京都港区 会長：山西健一郎）では、このほど、第 15 回産業観光まちづくり大賞の受賞団体として、下記のとおり金賞、経済産業大臣賞、観光庁長官賞など、計 5 団体を決定いたしました。本賞の概要、及び本年度受賞団体の概要につきましては、別紙をご覧ください。なお、本賞の表彰式※は、令和 4 年 9 月 23 日（金・祝）に東京ビッグサイトにて執り行います。表彰式の詳細については、当協会 HP にてご案内いたします。

### <第 15 回産業観光まちづくり大賞 受賞団体>

- 「金 賞」 NPO 法人 ORGAN 【岐阜県】
- 「経済産業大臣賞」 （公社）やまなし観光推進機構 【山梨県】
- 「観光庁長官賞」 横須賀市 【神奈川県】
- 「銀 賞」 越前海岸盛り上げ隊 【福井県】
- 「特 別 賞」 （一社）備前観光協会・（一社）みんなでびぜん 【岡山県】

#### 金賞

#### 経済産業大臣賞



勝沼醸造テラス



CASA オープニングセレモニー

#### 観光庁長官賞



浦賀レンガドック

産業観光まちづくり大賞は、「産業観光（産業遺産や、現在稼働している工場・工房などを活用した観光）」による観光まちづくりを実践し、他の地域の模範となる優れた事例を表彰する制度で、平成 19 年度に創設されました。産業観光に取り組む団体、企業等を対象に幅広く募集を行い、産業観光を通して地域振興に寄与しているか、受入側と訪問側に双方のメリットがあるビジネスモデルになっているかなどを主な評価の視点として審査を行いました。

※第 15 回産業観光まちづくり大賞の表彰式は、「ツーリズム EXPO ジャパン」の会場で開催いたします。「ツーリズム EXPO ジャパン」へのご入場には「来場登録」をお願いいたします。（<https://www.t-expo.jp/biz/registration>）

## 第15回産業観光まちづくり大賞について

### 1. 概要

#### (1) 主催

全国産業観光推進協議会・公益社団法人日本観光振興協会

#### (2) 募集対象

産業観光に取り組んでいる組織・団体

(企業、事業者、NPO、観光協会、商工会議所・商工会、商店街等)、

#### (3) 表彰内容

金賞、経済産業大臣賞、観光庁長官賞、銀賞（その他状況に応じ、特別賞、奨励賞等を設ける）

※金賞については、過去3年以内に同賞を受賞している団体は対象外とする。

※経済産業大臣賞および観光庁長官賞においては、過去にこれらの賞を受賞したことのある団体は同じ賞を受賞することはできない（既経済産業大臣賞受賞団体が観光庁長官賞を受賞、既観光庁長官賞受賞団体が経済産業大臣賞を受賞することは可能である）。

### 2. 評価の視点

<評価点 各5点 計45点>

①顧客サービスの獨創性（顧客への提供手法の斬新さ・ユニークさ）

②対象資源の価値（対象とする資源の固有性・希少性など）

③編集視点（対象とする資源をストーリーとして提供しているか）

#### ※経済産業大臣賞選定ポイント

④事業性（収益が見込める事業として展開しているか）

⑤ビジネス創出（新たなビジネス機会の拡大が図られているか）

#### ※観光庁長官賞選定ポイント

⑥誘客力（産業観光の展開により、観光客の誘致に成果をあげているか）

⑦商品力（産業資源を素材とした商品造成により、観光客の誘致に成果をあげているか）

⑧国際性（国際的視点や外国人観光客の誘致に向けた取組が図られているか）

⑨連携（他地域や異業種との連携による広域的な産業観光の推進が図られているか）

### 3. 審査方法

(1) 審査委員による事前審査（令和4年8月8日～8月23日）審査対象：全11応募団体

(2) 審査委員会（令和4年8月25日）

### 4. 審査委員（順不同・敬称略）

役職	所属	職名	氏名
委員長	学校法人東洋大学	総長	福川 伸次
副委員長	構想博物館・多摩大学	キュレーター・名誉教授	望月 照彦
委員	学校法人國學院大学	教授	楓 千里
"	全国産業観光推進協議会・東海旅客鉄道株式会社	会長・顧問	須田 寛
"	全国産業観光推進協議会	副会長	丁野 朗
"	観光庁観光地域振興部観光資源課	課長	富田 建蔵
"	経済産業省商務・サービスグループクールジャパン政策課	課長	俣野 敏道
"	株式会社 玄	代表取締役	政所 利子
"	公益財団法人日本交通公社	会長	光山 清秀
"	学校法人松蔭学園松蔭大学	客員教授	鷲尾 裕子
"	(公社)日本観光振興協会	理事長	久保田 穂

## 第 15 回産業観光まちづくり大賞受賞団体の取組概要及び評価のポイント

### 金賞

NPO法人ORGAN (岐阜県)

産業観光拠点『和傘CASA』を端緒とした、伝統工芸岐阜和傘の産業再生への多面的取り組み

#### 【取組内容】

NPO 法人 ORGAN では、平成 28 年、長良川流域で作られた逸品を揃えたセレクトショップ『長良川デパート』オープンと同時に岐阜和傘の取り扱いを開始。個人観光客が高単価工芸品としての和傘を購入するという、新しい市場の形成に取り組んでいる。

地域を代表する工芸品として販売を手掛けたものの、日本一の生産量を誇る一大産地でありながら、需要の激減、職人高齢化と不足、材料供給の断絶など、危機的な状況に陥っていることを知る。岐阜が誇る伝統工芸品としての価値と重要性をより広く伝えると共に、業界の課題を解決していく拠点として、築 100 年以上の町家を改装し、岐阜和傘を核とした産業観光拠点『長良川てしごと町家 CASA』を平成 30 年より整備していった。

和傘を核とした NPO 法人 ORGAN の取組として、以下の 9 つを紹介する。

#### ①個人向けの岐阜和傘の販売と普及・新市場形成

平成 28 年まで芸能祭礼業界以外での市場ニーズがほぼ皆無であった岐阜和傘の個人消費のチャンネルを作り、高単価工芸品としての新市場形成を行ってきた。

#### ②高付加価値・高単価商品の開発と販売

1 本 20 万円の『桜和傘』を契機に、30 万円の『桔梗和傘』、13 万円の『藍染和傘』など、職人と連携し高単価商品を開発・販売。

#### ③買える・学べる・体験できる伝統産業観光施設として観光商品造成・販売

『岐阜和傘かがり糸体験』（約 5 万円）、『ミニ和傘作り体験』（1 万円）、『岐阜提灯絵付け体験』などの観光体験プログラムを造成し販売。

#### ④自治体に対する政策提言と支援政策整備の支援

当法人の提言により、岐阜県では人材育成支援と、加工機械のアーカイブ化、販路開拓などが予算化、岐阜市ではガバメントクラウドファンディングの整備が行われ、ふるさと納税で職人育成支援ができる仕組みが作られた。

#### ⑤職人人材育成の仕組みづくりとファンドレイジング支援（寄附金集め）

希少部品『ろくろ』と『傘骨』などの職人後継者を育成する仕組みづくりの支援。また、クラウドファンディングやふるさと納税、『和楽器バンド』ファンからの寄付などをコーディネート。

#### ⑥振興主体としての一般社団法人岐阜和傘協会の設立支援

#### ⑦歌舞伎界、音楽業界他と連携した情報発信と寄附集め

歌舞伎座でのトークイベント、尾上右近氏による和傘オークション、藤浪小道具の CSR 事業、『和楽器バンド』ライブツアーでのたる募金など、芸能業界を通じた岐阜和傘の魅力・課題の発信と寄附集めプロジェクトの実施。

#### ⑧若手職人に対する工房空間の提供と設置

観光見学も可能な職人見習いの『傘骨』工房を CASA 内に設置。

## ⑨経済産業省・伝統的工芸品指定に向けた伴走支援

成果として、令和4年3月に、国の伝統的工芸品として指定を受けた。

『長良川てしごと町家 CASA』開業後、和傘が見たい、欲しいという和傘が目的で全国から来訪される方が増加。また、定期的に行っている和傘職人による『糸かがり体験』も好評で、5万円前後という高額な体験ながら、和傘に興味を持つ若者や職人を考えている方など全国から体験の申し込みがある。近隣での飲食や宿泊する機会も増え、伝統産業がエリアへの集客を促している。

これら和傘を中心に、岐阜提灯や美濃和紙など、一部では世界的認知のある伝統産業を通じ、世界から文化的興味の高いクリエイティブクラスが来訪する観光地へと成長したいと考えている。

### 【評価のポイント】

「和傘」を核に、高単価の商品や体験プログラムの造成・販売、戦略的なプロモーション活動、伝統産業を守り伝えていくための人材育成、地域の他の伝統産業との連携など、様々な優れた取組を行っている。活動の継続性や、高い事業性が評価され、金賞に選定された。

(審査委員からのコメント)

- ・ NPO 法人として長良川流域のまちづくりに関わり、地元の工芸品である和傘を「和傘 CASA」として付加価値を高める様々な取組を進めていることをはじめ、長良川流域の逸品を組み合わせた広域観光を進めている点、流域の美濃和紙と組み合わせ和傘のさらなる高価値化に取り組んでいる点など、将来の可能性を評価する。高価格の和傘や体験メニューなど、和傘の価値を高め、収益を職人育成にあてるなど、将来を見据えた取組に感心させられた。産業観光拠点「長良川しごと町家 CASA」という関係者や来訪者が集える場所があることは大きな強みとなるだろう。
- ・ 「長良川おんぱく」から継続的に取り組んできたものであり、伝統工芸を観光で拡大していく理想的モデル。国際的展開も大いに期待したい。
- ・ かつての「長良川おんぱく」としてスタートした事業が、地域の伝統産業「和傘」の復活だけでなく、長良川水運と和紙（美濃）との連携を図りながら、見事な産地復活を成し遂げた素晴らしい事業である。長良川流域は、美濃和紙・関刃物・木工など優れた伝統産業の産地がありながら長い間バラバラの状況であったが、下流の岐阜の活動がこれらを繋ぐハブになりつつある。



和傘 CASA 内観



桔梗和傘と桜和傘

### 【取組内容】

ワインの生産量日本一を誇り、「ワイン県」とも称される山梨県で、「ワインツーリズム」の先駆けとなったのは、ブドウ畑の景観を守るために昭和 62 年に設立された「勝沼ワイナリーズクラブ」の取組であった。蔵の整備を行ったのをきっかけに、少しずつお客様を呼びワイナリー見学や試飲が行われるようになり、「ルバイヤートワイナリーコンサート（蔵コン）」や「ブドウ栽培クラブ」などの取組に発展していった。平成 20 年には、お客様を地域に迎える組織（一社）ワインツーリズムの事業「ワインツーリズムやまなし」が始まり、本格的な呼び込み体制が動き始める。さらに、平成 28 年には県内ワイン生産の 8 割を担う峡東地区（山梨市、笛吹市、甲州市）に「峡東地域ワインリゾート推進協議会」が設立された。行政、地域の観光協会、レストラン、ホテル・旅館、ワイナリー団体、交通機関、農業関係団体などの関連するあらゆる組織との有機的なネットワークを構築し、サービスの向上に取り組んでいる。この組織を中心に、ワインを核に多くの来訪者が地域の魅力を体感・堪能できる周遊・滞在型観光地を実現させる事業を実施している。

コロナ禍前の令和元年、山梨県の観光消費額は過去最高値であったが、ワインツーリズムの取組は、県全体の観光消費額に大きく寄与している。ブドウからワインに、そしてそれを提供する過程で付加価値が生まれ、さらに来訪者が飲食、宿泊を行うことで県内での消費は大きくなる。地域振興の観点では、このように付加価値が生まれて、元のブドウから 10 倍の価値となっていくことが重要と考えている。付加価値を高めることを重視した取組を進めることで、1 人当たりの観光消費額はコロナ禍であっても増加している。

### 【評価のポイント】

ワイナリーだけでなく、地域の事業者が協力して、地域全体でワインツーリズムを支えており、全体的な広がりが見られることや、ワインが生み出す「付加価値」に重点を置き、事業性の高い取組が行われていることが評価され、経済産業大臣賞に選定された。

（審査員からのコメント）

- かつて勝沼ワイナリー創設の頃は、ワイナリー、ヴィンヤードなどが林立するだけで、地元で食を楽しむことすら満足にできなかったことを思うと隔世の感がある。何よりも、今でも異業種参入、若い人が独立して新たにワイナリーを創業しているといった点で、地域に勢いを感じる。組織的にも（一社）ワインツーリズム、（公社）やまなし観光推進機構などが海外誘客を含めて組織的に活動している点も素晴らしいと思う。
- 長年取り組んできたワインツーリズムが、日本ワインの高評価と共に、定着してきた。全国にワイン造りが広がっている中、先進事例として、他地域への波及が期待できる。
- ワインツーリズムによって、単にぶどうを出荷する産業から、付加価値を高め、広がりのある産業に確実に変貌している。世界を目標にすることから、すべての面での価値向上が期待される。



ワインツーリズムの様子

### 【取組内容】

令和3年3月に、日本で唯一のレンガ造りドライドックである「浦賀レンガドック」が住友重機械工業株式会社から横須賀市へ寄附されたことを契機に、当該施設の観光活用について検討を開始。また、日本遺産構成文化財である「千代ヶ崎砲台跡」についても、公開に向けて整備を進めていた。令和3年10月に両施設の公開が可能となったことから、交通事業者と連携しこれらを観光コンテンツ化し、市内周遊を促進する取組として「MEGURU PROJECT」を実施した。

本プロジェクトの実施期間は、令和3年10月23日～令和4年1月23日の土日祝。産業遺産「浦賀レンガドック」及び「千代ヶ崎砲台跡」のガイドツアーや、浦賀港でのクルーズ船運航を実施した。また、本プロジェクトでは、交通事業者と横須賀市が連携して事業を実施しており、二次交通の充実を目的に、バス事業者による横須賀の中心市街地と当該施設のある浦賀地域を結ぶリムジンバスの実証運行や、鉄道事業者による特別列車でのツアー造成や企画切符のデジタル化なども行った。

横須賀市では、令和3年度から市内に点在する開国から近代につながる歴史、文化の見どころや自然豊かなスポットを「サテライト」と呼び、それらを「ルート」でつなぐことで市内全体を大きな「ミュージアム」としてとらえた横須賀の新しい楽しみ方「よこすかルートミュージアム」を提案している。「MEGURU PROJECT」はこのルートミュージアムの促進施策であり、二次交通の充実や新たなコンテンツの造成により横須賀中心市街地から浦賀地域への周遊促進を図るものである。浦賀地域を新たな観光拠点として高付加価値化することにより、市内周遊の拠点となることで観光客の増加や滞在時間の延長、ひいては観光消費額の向上に資すると考えている。

### 【評価のポイント】

希少な価値のある産業遺産を活用し誘客力に優れた魅力的なコンテンツを造成していること、交通事業者など様々な事業者と協力し、連携を取りながら事業を実施していることなどが評価され、観光庁長官賞に選定された。

（審査員からのコメント）

- これまでの東海岸（横須賀中央）中心の産業観光から、横須賀では最も歴史の古い浦賀エリア、さらには東京湾要塞の一角である千代ヶ崎砲台や観音崎などを新たに開拓し、横須賀全域でのルートミュージアムにつなげた点が素晴らしい。世界に5つしかないドライドックの整備・活用、国史跡千代ヶ崎砲台の整備と開放などを通じた新たな産業観光拠点を拓いた点も評価される。そして何より、交通便利性の克服のために、国交省の観光MaaSの手法による「MEGURU PROJECT」（R4年度も継続）はこれからの産業観光のモデルとなる。
- 貴重な産業遺産の公開を、地域の交通と結び合わせて、一人でも、グループでも、家族でも、また、歩きたい人もそうでない人も、幅広い観光客に訴求する取組であることを評価する。期間限定の取組であるが、事業者のツアー実施につながっていること、横須賀市内の他資源とつなげていくことも視野にいれていることにより、今後が期待できる。



千代ヶ崎砲台跡ガイドツアー



ラッピングトレイン

## 【取組内容】

人口減少や過疎化が顕著に進んでいる福井市の越前海岸沿いの5地区（国見、越廼、殿下、鷹巣、棗）で店を構えるガラス細工業、飲食業、宿泊業、漁業、林業など様々な地域事業者たちが、狭い地区単位ではなく、より大きな枠組みで地域の活性化を進めていこうとの思いで「越前海岸盛り上げ隊」を発足。国立公園越前海岸の恩恵を受けた海の幸、山の幸、豊かな暮らしといった地域の宝物を発掘し、より多くの人と分かち合いながら、次世代へ繋げていきたいとの思いで始まったプロジェクトである。設立当初の平成27年度時の隊員は29名、令和4年度は39名となっている。

地域の若手事業者たち自らが自然を感じる体験メニュー（海の体験博覧会「うみたん」）を24種類造成し提供している他、隊員が連携して農家民宿による教育旅行の受入れを実施。さらに、地域に長期的な関わりを持ってくれるファンとの交流拠点を整備する「人の駅」プロジェクトの一環として、古民家をリノベーションしてコミュニティスペース「はりいしゃ」を整備。ワーケーションや移住の受入れ、ギャラリーでのアート企画展・落語会開催、マルシェの開催などを行ってきた。また、付近のお店を紹介する「トレジャーマップ」の作成などにも取り組み、ホームページを中心にSNS等を活用して地域魅力の積極的に情報発信を行い、最近では、ローカル情報局Podcast番組「つるつるいっぱい浜ラジオ」の配信にも取り組んでいる。

地域一体の魅力を発信しながら、各隊員が行う体験コンテンツによる人の繋がりを重視した施策を展開することで、越前海岸エリアへの人の流れを創出し、地域経済の活性化や、移住定住の促進による地域振興につなげる活動を行っている。

## 【評価のポイント】

地域内の様々な事業者が連携し、「面」として産業観光に取り組んでいることが高く評価された。活動によって移住者も増え、さらに活動の幅が広がっており、まさに産業観光による「まちづくり」が行われていることから、他地域への推奨モデルに成り得るとして、銀賞に選定された。

（審査員からのコメント）

- ・平成27年以降、地域の連携、移住者との協力により、着実にまちづくりが進展している点を評価したい。
- ・移住されてきた方と、地域の方による有機的な取組であることを評価する。また、様々な職種のみなさんの得意を組み合わせ、いろいろな活動を実施していることも興味深い。人口5,000人台の小さな地域に、4年間で10事業者、15人の移住者があり、その中から体験メニューが作られ、新しい産業が生まれ、9件の修学旅行受入れなど、成果が上がっており大変興味深い。若い人たちが楽しみながら地域の暮らしを豊かにするための取組が、心地よく感じた。
- ・学生の教育旅行に特化した誘客を行っており成果が出ている点が評価できる。また、これらの活動をきっかけとして移住者が増えている点も評価できる。



タコかご漁体験

## 特別賞

(一社) 備前観光協会・(一社) みんなでびぜん (岡山県)

海洋教育を通じた SDGs と観光 -里海・里山の自然と共存する観光まちづくり-

### 【取組内容】

「みんなでびぜん」の活動のルーツは昭和 60 年ごろから日生町の漁師たちが取り組んだ「アマモ場再生活動」に遡る。「アマモ」とは魚の産卵の場や稚魚のすみかとなる海草で、細く長い葉の大群「アマモ場」は「生命のゆりかご」と呼ばれている。しかし、高度経済成長による工業廃水や魚の乱獲などにより、日生の海は最盛期に 600ha 近くあったアマモ場が 10ha 程度に大きく減少した。直ちに日生町漁業協同組合は自主的なアマモ場再生を開始。アマモの種を回収し、再び海にまいて育てる活動を開始した。漁師の高齢化などで人手不足に陥ってからは、地元の中学生在が「海洋学習」「環境学習」としてアマモ場再生に取り組むなど、地域全体で活動を支えてきた。こうした取組が母体となり、漁協、農協、商工団体、観光団体、企業、まちづくり団体、自治会、NPO、小・中・高・大学生などの様々な団体が目的を共有し、様々な事業を検討、展開していく組織として、一般社団法人「みんなでびぜん」が誕生した。

「みんなでびぜん」では、日本財団が推進する渚の交番プロジェクトのもと日生諸島の頭島に令和 3 年 9 月にオープンした「ひなせうみラボ」の運営を行っている。「ひなせうみラボ」のコンセプトは「子供たちを海へ」であり、地元の食材を使ったレストランや土産店が入る他、海洋教育・海洋研究も実施しており、アマモ場の見学や種まき体験、海ごみを利用してハーバリウムを作るアートクラフトなど、多様な体験プログラムを提供している。子どもたちが「海ばなれ」している現状を改善するため、主に子ども達と親を対象とした海に対する関心や好奇心を高める活動を行い、次世代を担う子ども達が海をより「自分ごと」として捉え、未来へ引き継ぐ行動の輪を広げる拠点となることを目指している。

### 【評価のポイント】

長年の海洋保全の活動が地域一体に波及し、「みんなでびぜん」の名の通り、地域全体で SDGs に寄与する活動を行っていること、「ひなせうみラボ」を拠点に、子どもたちへの教育に重点を置き、未来につながる産業観光を実施していることから、今後への期待を込めて、特別賞に選定された。  
(審査員からのコメント)

- ・アマモ場再生活動を発祥とする海洋での活動を、SDGs 教育の観点から教育旅行や研究拠点など、さらには観光などに発展・展開している優れた活動として評価する。特に産業公害によるアマモ場の消滅と再生への取組は、産業観光教育という観点からは優れた活動モデルになると思われる。また、日本遺産閑谷学校や備前焼など地域文化とも関連づけた活動も素晴らしい。
- ・地球崩壊に向かう現代の地域での「地球再生循環モデル」の小さな先駆事例といえる。
- ・日生は新幹線の停車駅がなく、山陽線も通っていないため、「日生」の存在とその価値をまず宣伝することが前提となる。しかし、それだけいい自然が保たれていたら、おそらく有望な観光地となろう。SDGs との関わりも新鮮だ。
- ・「地球人としてのテーマ」が問われる昨今、ルーティン等一層の工夫が必要かと感じられる。今後の成長分野としての期待も加え、ポテンシャルが高いと思われる。



日生諸島の美しい景観



## <参考 過去の受賞団体一覧>

※団体名はそれぞれ受賞当時のもの

### ●第1回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成19年度）

- 金賞 財団法人名古屋観光コンベンションビューロー（愛知県）
- 銀賞 釧路市（北海道）
- 特別賞 宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会（山口県）

### ●第2回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成20年度）

- 金賞 財団法人浜松観光コンベンションビューロー（静岡県）
- 銀賞 川崎産業観光振興協議会（神奈川県）  
NPO法人いくのライブミュージアム（兵庫県）
- 特別賞 栗原市（宮城県）

### ●第3回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成21年度）

- 金賞 北九州市（福岡県）
- 銀賞 函館市（北海道）  
益子アートウォーク実行委員会（栃木県）
- 特別賞 横須賀市・横須賀集客促進実行委員会・株式会社トライアングル（神奈川県）  
YKK株式会社・黒部市（富山県）

### ●第4回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成22年度）

- 金賞 桐生市（群馬県）
- 銀賞 大垣商工会議所（岐阜県）
- 奨励賞 昭島市（東京都）  
社団法人真庭観光連盟（岡山県）

### ●第5回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成23年度）

- 金賞 姫路市（兵庫県）
- 銀賞 会津若松商工会議所（福島県）
- 特別賞 岡谷市・岡谷商工会議所・岡谷市観光協会（長野県）
- 奨励賞 丹後ええもん工房（京都府）

### ●第6回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成24年度）

- 金賞 酒田市・一般社団法人酒田観光物産協会・酒田商工会議所  
（山形県）
- 銀賞 天草市（熊本県）
- 特別賞 みたけ華ずしの会（岐阜県）

●第7回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成25年度）

- 金賞 おおたオープンファクトリー実行委員会（東京都）
- 銀賞 室蘭観光推進連絡会議（北海道）  
宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会（山口県）
- 特別賞 秋田内陸縦貫鉄道株式会社（秋田県）  
静岡商工会議所（静岡県）

●第8回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成26年度）

- 金賞 北九州産業観光センター（福岡県）
- 経済産業大臣賞 燕三条プライドプロジェクト・「燕三条 工場の祭典」実行委員会  
（新潟県）
- 観光庁長官賞 小岩井農牧株式会社 小岩井農場（岩手県）
- 銀賞 小樽産業観光推進協議会（北海道）  
小松市（石川県）
- 特別賞 小坂町（秋田県）  
鶴岡織物工業協同組合（山形県）

●第9回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成27年度）

- 金賞 知多半島観光圏協議会（愛知県）
- 経済産業大臣賞 新居浜市（愛媛県）
- 観光庁長官賞 三条市（新潟県）
- 銀賞 北海道鉄道観光資源研究会（北海道）
- 奨励賞 生野まちづくり工房井筒屋運営委員会（兵庫県）

●第10回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成28年度）

- 金賞 NPO法人神岡・町づくりネットワーク（岐阜県）
- 経済産業大臣賞 すみだ地域ブランド推進協議会／墨田区産業観光部産業経済課  
（東京都）
- 観光庁長官賞 一般社団法人舞鶴観光協会（京都府）
- 銀賞 呉市（広島県）
- 特別賞 八戸まちづくり文化スポーツ観光部観光課（青森県）
- 奨励賞 加古川市（兵庫県）

●第11回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成29年度）

- 金賞 桑名市産業観光まちづくり協議会／エイベックス株式会社  
（三重県）
- 経済産業大臣賞 大阪糖菓株式会社（コンペイトウ王国）（大阪府）
- 観光庁長官賞 田舎館村むらおこし推進協議会（青森県）
- 銀賞 一般社団法人岩見沢市観光協会（北海道）

●第12回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成30年度）

- 金賞 有限会社兵吉屋（三重県）
- 経済産業大臣賞 株式会社梅守本店（奈良県）
- 観光庁長官賞 益子町観光協会（栃木県）
- 銀賞 富士吉田市（山梨県）
- 特別賞 一般社団法人那覇市観光協会（沖縄県）

●第13回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（令和元年度）

- 金賞 広田湾遊漁船組合（広田湾漁業協同組合）（岩手県）
- 経済産業大臣賞 株式会社能作（富山県）
- 観光庁長官賞 志摩市（三重県）
- 銀賞 オタフクソース株式会社 Wood Egg お好み焼館（広島県）
- 奨励賞 武蔵野市・一般社団法人武蔵野市観光機構（東京都）

●第14回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（令和3年度）

- 金賞 こまつものづくり未来塾実行委員会・小松市 にぎわい交流部観光交流課（石川県）
- 経済産業大臣賞 SUWAブランド推進委員会・諏訪市産業連携推進室（長野県）
- 観光庁長官賞 特定非営利活動法人コンソーシアム有松（愛知県）
- 銀賞 浜田市（島根県）
- 特別賞 東京でホップを育てよう！プロジェクト協議会（東京都）
- 特別賞 ProjectBoleeGa（プロジェクトボレーガ）（広島県）
- 奨励賞 関の工場参観日実行委員会（岐阜県）